

産業機械用無線操縦装置

# ケーブルレス<sup>®</sup> サテータ

工事要領書

RX-51000U/G 型



RX-3300U/G 型



RX-61000U/G 型



RX-71000U/G 型



# 本書について

この度は弊社の無線操縦装置「ケーブルレス」・「サテレータ」をご購入いただき、誠にありがとうございます。

本書は、受信機・アンテナの取付け、配線に関する工事要領書です。工事の前に、この工事要領書を必ずよくお読みいただき、工事後は大切に保管してください。万が一、紛失された場合は、朝日音響ホームページ製品情報ページよりダウンロードもできますのでご利用ください。

なにかお困りのことがございましたら、お気軽に販売店様、もしくは弊社にお問い合わせください。

朝日音響ホームページ  
製品情報ページ



送信機の使用方法や、点検などは、別添の機種別の取扱説明書を参照してください。

本書は標準品を基準として記載しています。  
非標準型の場合は本書と共に必ず別添の完成図書を参照しながらお読みください。

<工事店様へ>  
工事終了後、この工事要領書を、必ずお客様へお渡しください。

## ■弊社無線操縦装置について

本機は日本の電波法、及びその関連法規に準拠して製作された産業用の無線操縦装置です。電波を利用して安全な場所から機械を動作、停止等をおこなうことができ、生産現場や工事現場等の作業環境の改善、作業効率の向上、生産コスト削減が期待できます。一方、使い方を誤ると重大な事故に繋がる可能性がありますので、本書を熟読いただき安全に運用いただくようお願いいたします。

安全に本機を運用いただくために、原則、機械が目視できる範囲でご使用ください。機械を目視できない場所から無線操作を行うと、重大な事故に繋がる可能性がありますので絶対におこなわないでください。

本機は 10mW 以下の非常に小さな送信出力ですが、万が一、強い妨害波の影響を受けた場合は「動作を停止させる」というコンセプトで設計しておりますので、勝手に動作することはありません。しかし、意図しない動作停止が多発する場合は、その原因を取り除く必要がありますので、弊社へご相談ください。

# 目次

|                     |     |
|---------------------|-----|
| 本書について              | …2  |
| <b>1. 安全上のご注意</b>   |     |
| 1-1. 安全に設置していただくために | …4  |
| 1-2. 設置工事についての注意事項  | …5  |
| <b>2. 受信機の取付け</b>   |     |
| 2-1. 取付け上の注意        | …6  |
| 2-2. 受信機の取付け方法      | …7  |
| <b>3. アンテナの取付け</b>  |     |
| 3-1. 取付け上の注意        | …8  |
| 3-2. アンテナの取付け方法     | …9  |
| 3-3. 通信環境について       | …11 |
| <b>4. 電源配線</b>      |     |
| 4-1. 電源             | …12 |
| 4-2. アース            | …13 |
| <b>5. 信号線配線</b>     |     |
| 5-1. リレー            | …14 |
| 5-2. 端子台            | …16 |
| 5-3. 配線             | …18 |
| <b>6. 周波数の設定</b>    | …22 |
| <b>7. 動作確認</b>      | …24 |
| <b>8. 付録</b>        |     |
| 8-1. 受信機外形図         | …26 |
| 8-2. 内部配置図          | …30 |

# 1. 安全上のご注意

---

## 1-1. 安全に設置していただくために

- ・「1. 安全上のご注意」では製品を正しく設置・運用していただくために守っていただきたい事項を記載しています。
- ・設置工事の前に必ず、本書を熟読し正しくご使用ください。
- ・機器の知識、安全の情報、注意事項の全てについて習熟してからご使用ください。
- ・本章では、安全注意事項のランクを「危険」「警告」「注意」の3つに区分しています。各ランクの内容は以下の通りです。



### 危険

- ・取扱いを誤った場合に、死亡または重症を負うことがあり、かつ、その切迫の度合いが高い危害の程度



### 警告

- ・取扱いを誤った場合に、死亡または重症を負うことが想定される危害の程度



### 注意

- ・取り扱いを誤った場合に、中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合や物的損害の発生が想定される場合

## 1-2. 設置工事についての注意事項



- ・ 取付け及び配線工事は専門業者、専門知識のある人が行ってください。
- ・ 受信機の設置は使用環境を確認した上で行ってください。  
設置後、使用環境が悪くなった場合は必ず使用を中止してください。
- ・ 受信機内部の設定スイッチを不用意に変更しないでください。
- ・ 受信機の配線後は、必ず試運転を実施してください。
- ・ 適切な負荷容量の電磁接触器を使用してください。



- ・ 送信機には認証ラベルまたは技術基準適合証明ラベル（技適ラベル）が貼付けされています。このラベルを剥がさないでください。
- ・ 受信機リレーの接点保護のため、閉時の突入電流対策として、必要に応じて補助リレーを入れる等の対策をしてください。  
電磁接触器のコイルには、サージキラーの接続を推奨します。
- ・ 近くに無線を利用した機器がある場合は、周波数を確認してください。  
同一周波数や隣接周波数の無線機が近くにある場合は、安定した動作ができない場合があります。



- ・ 高温・腐食性ガス・油・薬品に触れる環境または長時間の屋外放置は避けてください。  
製品の劣化を早め、故障の原因となります。

# 2. 受信機の取付け

## 2-1. 取付け上の注意

設置前に「1. 安全上のご注意」を必ず読み、内容を十分に理解した上で作業を行ってください。

設置場所の選定は、以下の条件を満足できるようにしてください。

- ・ 激しい振動、衝撃の加わらない環境

振動の少ない場所に設置してください。

取扱説明書「付録」に記載の振動・衝撃の規格値を超える場合や、規格値内でも連続して加わる場合、故障の原因になります。防振ゴムを使用するなど防振対策を実施してください。弊社で防振ゴム KA-25(倉敷化工)をオプション部品としてご用意しております。

お求めの場合は、弊社にお問い合わせください。

- ・ 極端な高温・低温や急激な温度変化の無い環境

温度変化の激しい場所を避けて設置してください。急激な温度変化や極端な高温・低温となる環境でのご使用は部品の早期劣化に繋がります。

受信機の動作周囲温度範囲は $-10^{\circ}\text{C}\sim+60^{\circ}\text{C}$ （結露無きこと）となりますので、この温度範囲を超える環境が予想される場合には冷却ファンやヒーターを設置するなどの対策を行い、規格の温度範囲を超えないようにしてください。

- ・ 腐食や劣化が進行しない環境

受信機はIP65 相当の保護性能を有していますが、常時水がかかる環境や、油や薬品など水以外の液体がかかる環境、また酸・アルカリの雰囲気中に晒される環境では、別ボックスに入れる等の保護対策を行ってください。

- ・ ノイズ源から距離を離れた環境

高周波電気炉やLED 照明、インバーターなどノイズの発生源になり得る場所からは、できるだけ遠ざけて設置することによりノイズの影響を軽減できます。



・ 設置作業は感電や墜落の危険があります。機器と電気および無線システムのことを熟知した方が、慎重に作業してください。設置上のミスは重大な事故になり危険です。

## 2-2. 受信機の取付け方法

平坦で強固な面に、受信機の下図の取付け穴を使用し（RX-51000(図 2-1.)の場合）、M6 ボルトとワッシャー(座金)を使用してしっかりと固定してください。(推奨トルク 5N・m)  
また、環境に応じて他の取付け穴を使用して固定箇所を増やす事で、より強固な設置が可能です。それ以外の受信機寸法については「8-1. 受信機外形図」をご参照ください。

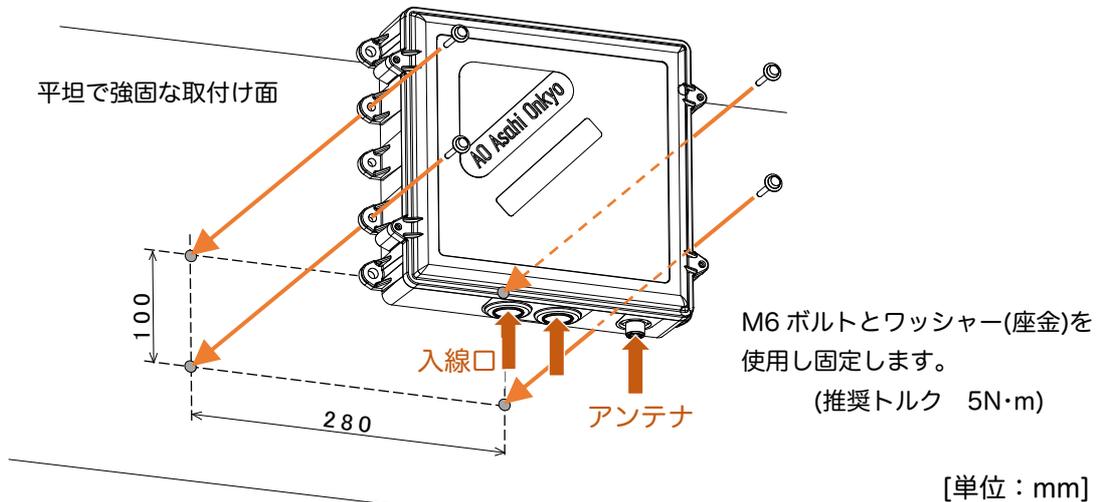


図 2-1. RX-51000 取付け例

## Point

- ・受信機取付け方向は、入線口が上向きにならない方向に取付けてください。
- ・アンテナの取付けや入線するスペースも確保してください。

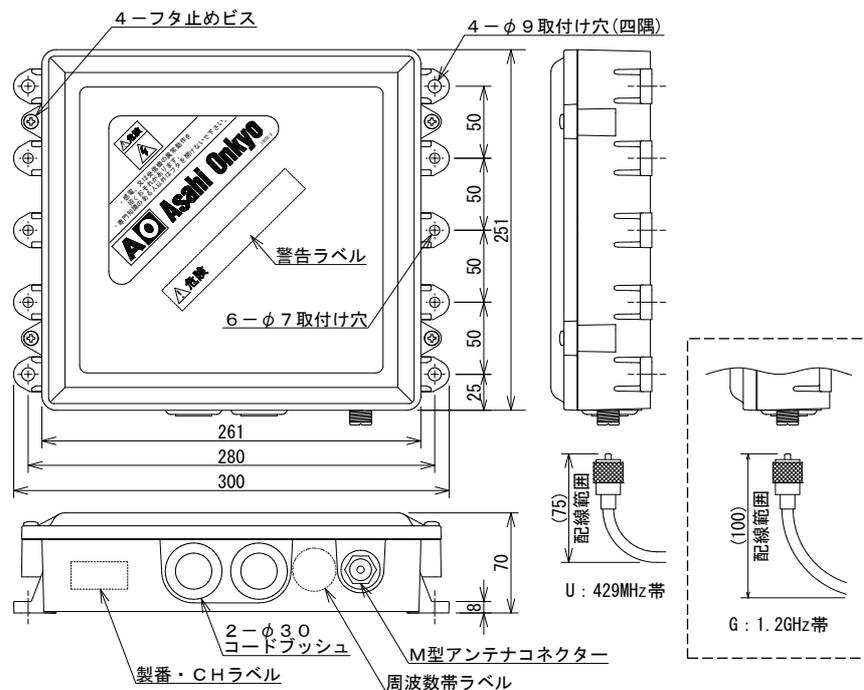


図 2-2. RX-51000 外形図

## 3. アンテナの取付け

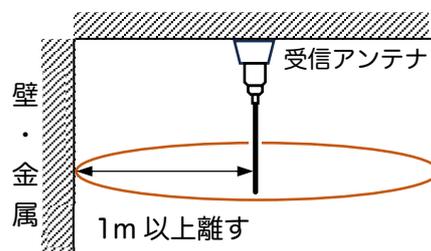
### 3-1. 取付け上の注意

アンテナの設置環境が電波の到達範囲に大きく影響を与えます。以下の項目に注意し設置してください。必要な到達性能が得られない場合は、アンテナの位置や角度、方向を変えることにより改善することがあります。

アンテナは以下の点に配慮して設置してください。

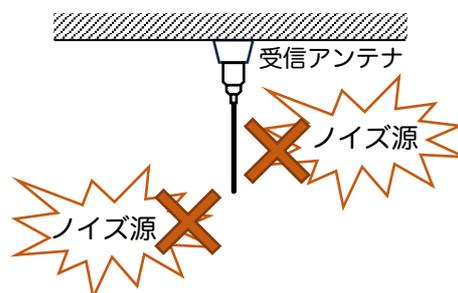
#### ・アンテナ周囲に空間確保

周囲に十分な空間を確保してください。壁や金属が近くにあると本来の性能を発揮できません。また、アンテナを曲げても使用できますが、切断等はしないでください。



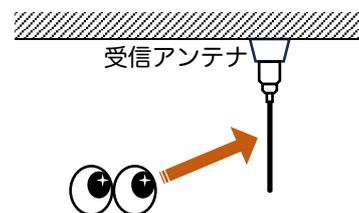
#### ・ノイズ源から離す

高周波電気炉、LED照明、インバーター、回転灯、トロリー線などのノイズ源から離して設置してください。



#### ・運転者から見えるところに

アンテナは必ず運転者から見える場所に取付けてください。図のようにアンテナ全体が見える向きで取付けてください。アンテナが障害物の陰に入ると動作が不安定となり危険です。



- ・クレーン、その他機器の移動で衝突しない場所に設置してください。
- ・アンテナは金属製のためトロリー線などに接触させないでください。
- ・アンテナは振動などで外れて落下しないように、しっかりと固定してください。

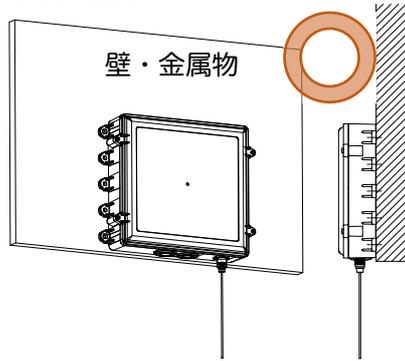
## 3-2. アンテナの取付け方法

### ・受信機に直接アンテナを取付ける場合

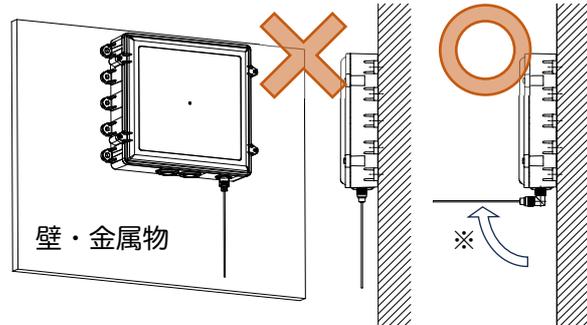
付属のロッドアンテナは受信機本体に直接取付けます。アンテナはできるだけ金属物から離し、送信機使用範囲のどの位置からでもみえる場所に取付けてください。

金属物に受信機本体を取付ける場合、金属物と接近しないようにアンテナを取付けてください。

#### ■推奨設置例



#### ■アンテナが金属物に接近する時は



※オプションのM型変換アダプター(型式名:M-LA)を使用して金属面から距離をとる

### ・アンテナを別置きにする場合

受信機本体にロッドアンテナを接続できない場合や、見通しがよい場所に受信機が取付けられない場合、また十分な到達距離を確保したい場合、オプションのマウントキット（一部機種は標準付属）を使ってアンテナを別置きする事ができます。

設置環境に合わせて、マウントステーの取付け面 X,Y,Z いずれかの面の取付け穴 2カ所を使用し M6 ボルトで固定してください。(推奨トルク 5N・m)

アンテナ用コネクターは取付け穴(A)または(B)を使用して、付属の専用ナットでしっかりとマウントステーに固定してください。

取付け面 X,Y,Z および取付け穴(A)(B)は図 3-2.および図 3-3.を参照してください。

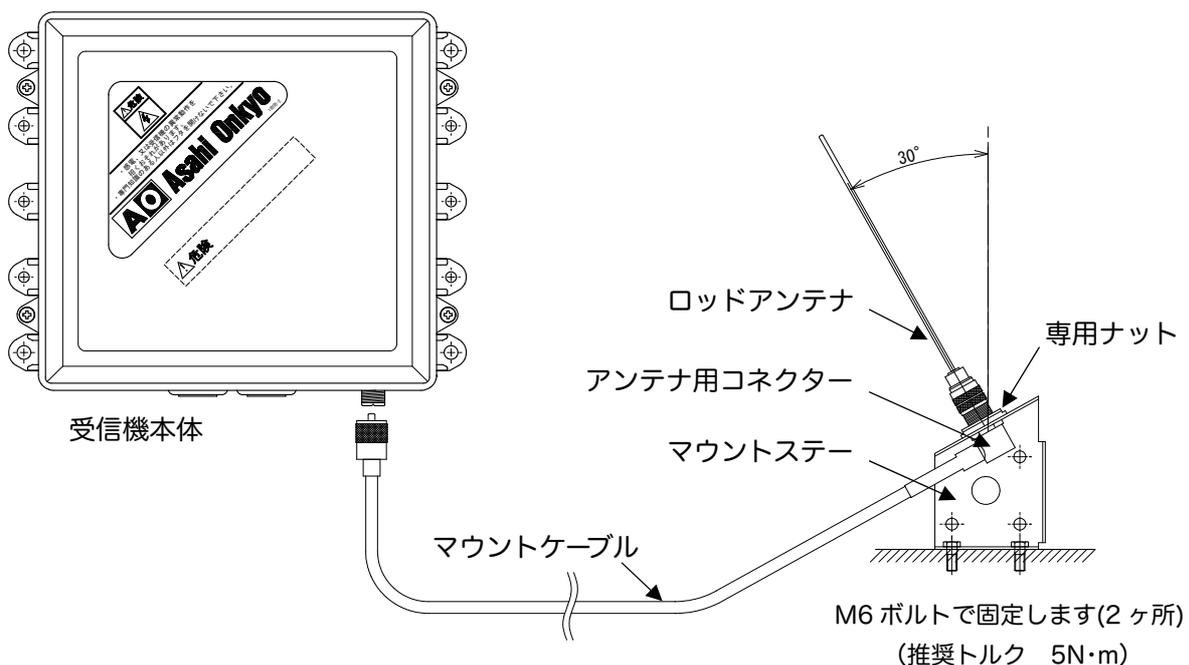
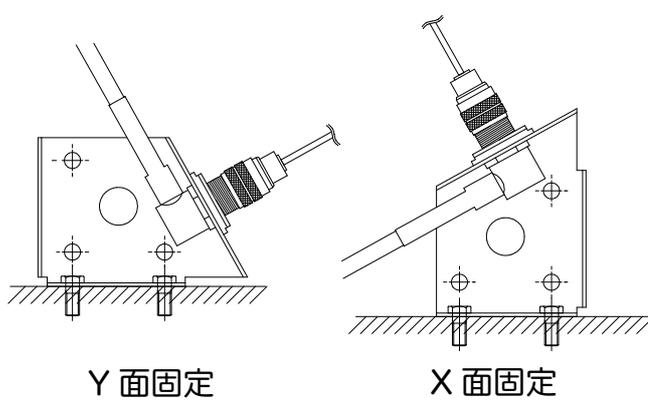


図 3-1. マウントキット構成図

### 3. アンテナの取付け

・マウントキット使用時の設置例

■コネクタ取付け穴（A）使用時



■コネクタ取付け穴（B）使用時

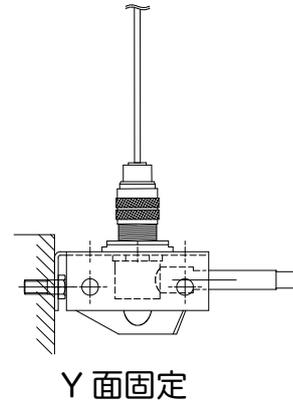
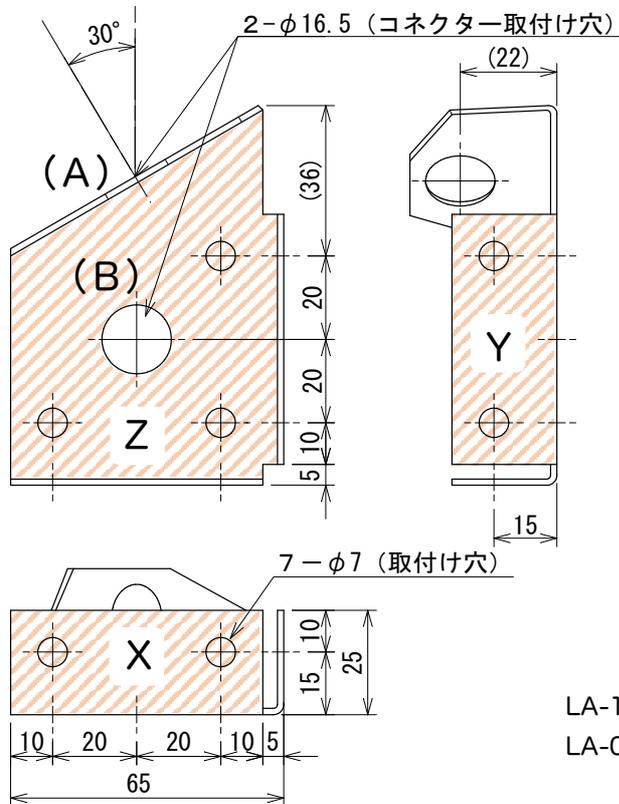


図 3-2. マウントキット使用時の設置例

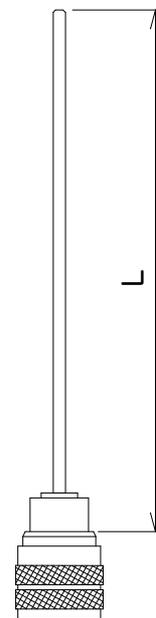
## Point

マウントケーブルが長くなると受信信号の減衰が大きくなります。  
429MHz帯は5C系 (75Ω)、1.2GHz帯は5D系 (50Ω)の  
同軸ケーブルを使用し、必要最小限のケーブル長でご使用ください。

■マウントステー



■ロッドアンテナ



LA-170 (429MHz 帯用) L=170mm  
LA-060 (1.2GHz 帯用) L=60mm

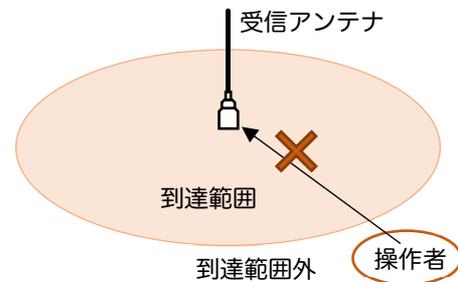
図 3-3. マウントステー・ロッドアンテナ外形図

## 3-3. 通信環境について

様々な環境要因により、まれに電波の受信が不安定になる場合があります。  
以下の要因を参考に、障害の原因を排除してから使用してください。

- ・到達距離を超える場合

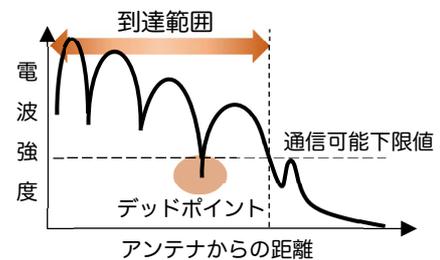
無障害状態での到達範囲を本機の仕様に記載しておりますが、到達範囲はアンテナの設置状態、建物、障害物、電波環境等で大きく変化します。実際の設置状態での操作可能範囲を確認後、その範囲内でご使用ください。



- ・デッドポイントに入る場合

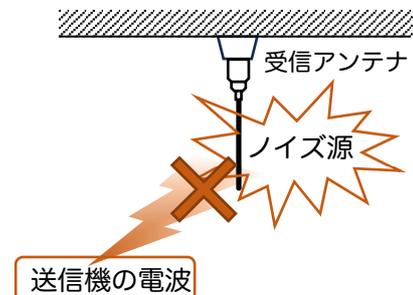
到達範囲内でも送信された電波が壁などで反射した電波で打ち消されて、電波が弱くなるスポットができる事があり、そのスポットをデッドポイントと言います。

普段使用する場所にデッドポイントが存在する場合は、アンテナの位置や向きを変える事で影響が軽減される場合があります。



- ・強い妨害電波が存在する場合

同一もしくは近い周波数の外来電波や強いノイズが受信機に侵入すると、送信機の電波を正常に受信できなくなります。ノイズ対策をして妨害電波を排除するか遠ざけて、通信に影響を受けない状態でご使用ください。



**危険**

- ・通信が不安定な状態での使用は危険です。  
通信が安定した状態でご使用ください。

# 4. 電源配線

## 4-1. 電源

お買い上げいただいた受信機の電源仕様を確認してください。  
標準型の電源仕様は、AC100V～220Vです。(※1)  
電源線を、AC100～220Vと表示してある電源端子台に接続してください。

RX-51000 での例を図 4-1.に示します。

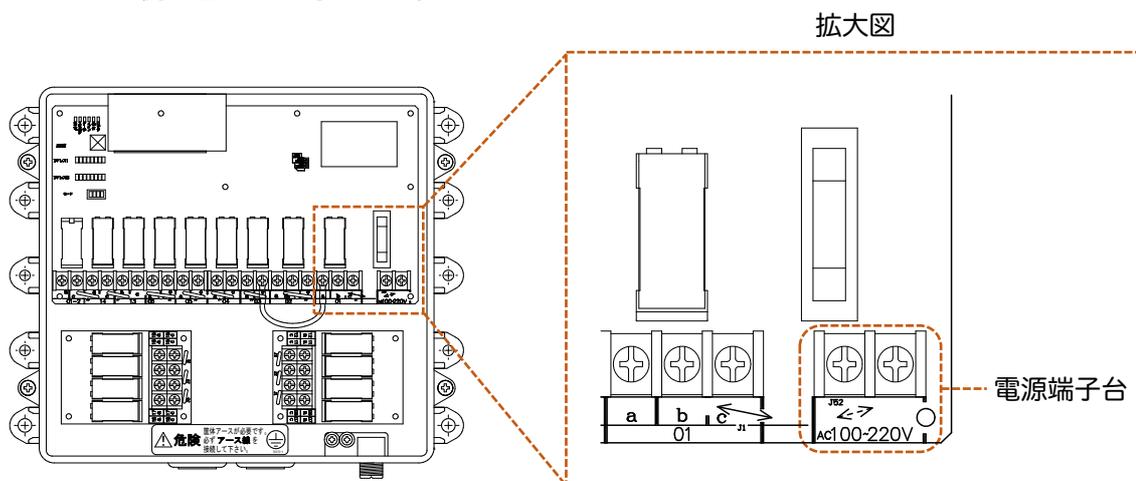


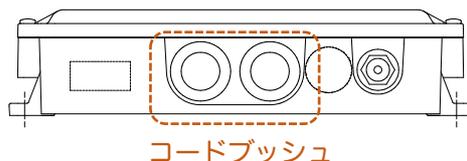
図 4-1. 電源端子台 (RX-51000 の場合)

受信機ごとの電源端子台の場所は、「8-2. 内部配置図」を参照してください。

端子は絶縁スリーブ付きの O 型端子(M3.5)を使用してください。  
端子台の推奨締め付けトルクは 1.0～1.3N・m です。

電源ケーブルは、コードブッシュから配線してください。コードブッシュはケーブル径に応じてカットしてください。

なお、雨水が掛かったり粉塵が多い環境では、コードブッシュを外して防水接栓をご使用ください。  
防水接栓をお求めの際は、弊社にお問い合わせください。



(※1) オプションで DC12～48V 入力があります。

## 4-2. アース

すべての受信機は、筐体アースが必要です。

筐体アースは、ケース金属部に触れた時の感電防止、およびノイズ対策のために必要です。

必ず実施してください。

アース線は、できるだけ太い線（最大2mm<sup>2</sup>）を使用してください。

アース線は、コードブッシュから配線してください。

RX-51000 のアース端子の例を図 4-2. に示します。

端子は絶縁スリーブ付きの O 型端子(M4)を使用してください。

受信機ごとのアース端子の場所は、「8-2. 内部配置図」を参照してください。

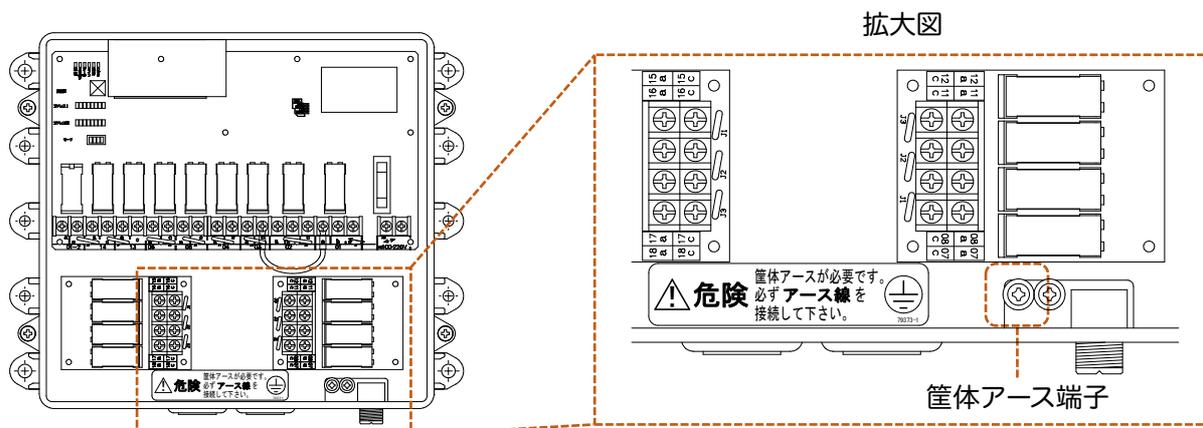


図 4-2. アース端子の例 (RX-51000 の場合)



**危険**

- ・配線作業の前に、電源ブレーカーと負荷供給電源が切られていることを確認してください。
- ・電源は、漏電遮断器または配線用遮断器を通して供給してください。
- ・電源は、本機の仕様電圧を供給してください。
- ・電気設備基準および内線規定に従ってください。
- ・配線作業は感電の危険を伴います。  
誤った配線は対象設備の異常動作を招くおそれがあり危険です。  
専門的知識を有する方が配線作業を行ってください。
- ・絶縁スリーブのない圧着端子を使用すると隣の圧着端子と接触し、誤動作や故障の原因になります。
- ・汗や鉄粉等の異物が受信機内部に入らないよう配線を行ってください。
- ・配線作業後、電線くず等、異物が受信機内部に残っていないか確認してください。



**警告**

- ・RX-3300、RX-51000 のシャーシ・カバーは導電性プラスチックです。  
絶縁体ではありませんので、電圧を印加すると電流が流れます。

## 5. 信号線配線

### 5-1. リレー

リレーの仕様は次の通りです。

| リレー              | 電氣的寿命   | 接点定格負荷                    |                           | 最小負荷   |
|------------------|---|---------------------------|---------------------------|--|
|                  |   | 抵抗負荷                      | 誘導負荷                      |  |
| G2R-1-S<br>DC12V | 10 万回   | AC250V 10A<br>DC30V 10A   | AC250V 7.5A<br>DC30V 5A   | 故障率 P 水準<br>DC5V 100mA<br>(開閉ひん度<br>120 回/min) |
|                  | 定格低減負荷時<br>50 万回<br>・ 3 年目安<br>・ 150 回/h<br>・ 1 日 3.2h 稼働 | AC250V 3.7A<br>DC30V 3.7A | AC250V 2.3A<br>DC30V 1.4A |  |

リレーの接点定格以内の負荷（電磁接触器など）を制御可能ですが、接点寿命を延ばすため、表の定格低減負荷の値を参考に、電流量を抑えてご使用ください。ただし最小負荷のような小さい負荷でのご使用は避けてください。

コモン線に流れる電流の合計は、7A 以下としてください。（基板のパターンの損傷防止のため）コモン線に 10A のヒューズを挿入しています。ヒューズの場合は図 5-1.を参照してください。

ヒューズが溶断した場合は、その原因を取り除いて、交換してください。交換用ヒューズ(10A)は弊社指定品をご使用ください。交換用ヒューズをお求めの際は、弊社にお問い合わせください。

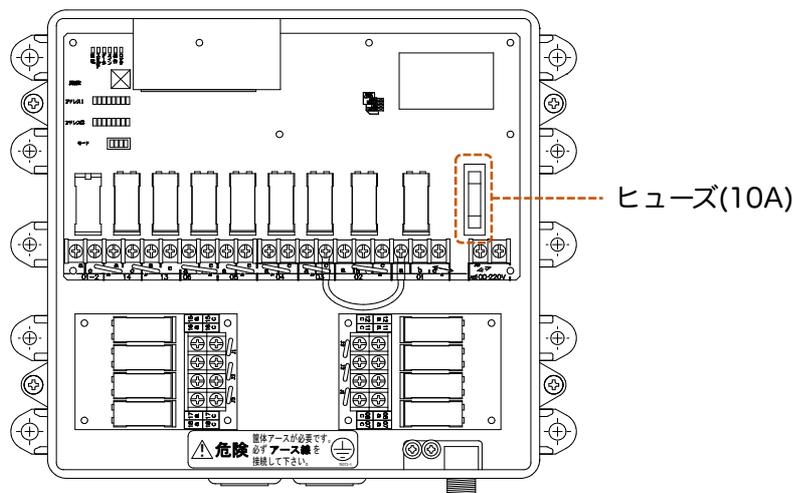


図 5-1. コモン線ヒューズ位置 (RX-51000 の場合)

受信機リレーの接点保護のため、閉時の突入電流対策として、補助リレーを入れる等の対策をしてください。電磁接触器のコイルには、サージキラーの接続を推奨します。

## Point

特に直流コイルの電磁接触器は、コイルの逆起電力によって高電圧が発生します。

受信機には、バリスタをリレー接点と並列に入れてありますが、限度を超えると破損します。電磁接触器側での対策を実施してください。



## 危険

- ・リレーの開閉回数を超えて使用された場合は、すみやかに交換してください。  
リレーは3年以内の交換を推奨します。  
開閉回数を超えて使用すると、接点の劣化により接点不良や接点溶着が生じ、制御不可能になるおそれがあり、機械側で緊急停止や電源遮断が必要となります。
- ・リレーは、6ヶ月点検で必ず点検してください。  
接点不良及び摩耗や劣化、リレーケースの変色が確認された場合は、機械の使用を停止し、すぐにリレーを交換してください。
- ・配線作業の前に、電源ブレーカーと負荷供給電源が切られていることを確認してください。
- ・電気設備基準および内線規定に従ってください。
- ・配線作業は感電の危険を伴います。  
誤った配線は対象設備の異常動作を招くおそれがあり危険です。  
専門的知識を有する方が配線作業を行ってください。
- ・絶縁スリーブのない圧着端子を使用すると隣の圧着端子と接触し、誤動作や故障の原因になります。
- ・汗や鉄粉等の異物が受信機内部に入らないよう配線を行ってください。
- ・配線作業後、電線くず等、異物が受信機内部に残っていないか確認してください。
- ・機械側には、衝突防止、過巻防止、インターロック等の安全措置を施してください。
- ・電波断、緊急停止操作時には、リレー出力がOFFとなります。  
このとき対象設備が安全に停止するように処置してください。

## 5. 信号線配線

### 5-2. 端子台

端子は絶縁スリーブ付きのO型端子(M3.5)を使用してください。  
端子台の推奨締付けトルクは次のとおりです。

| 端子台     | 推奨締付けトルク   |
|---------|------------|
| 本体基板    | 1.0~1.3N・m |
| 増設リレー基板 | 0.8N・m     |

信号線の端子台の位置は図 5-2.のとおりです。

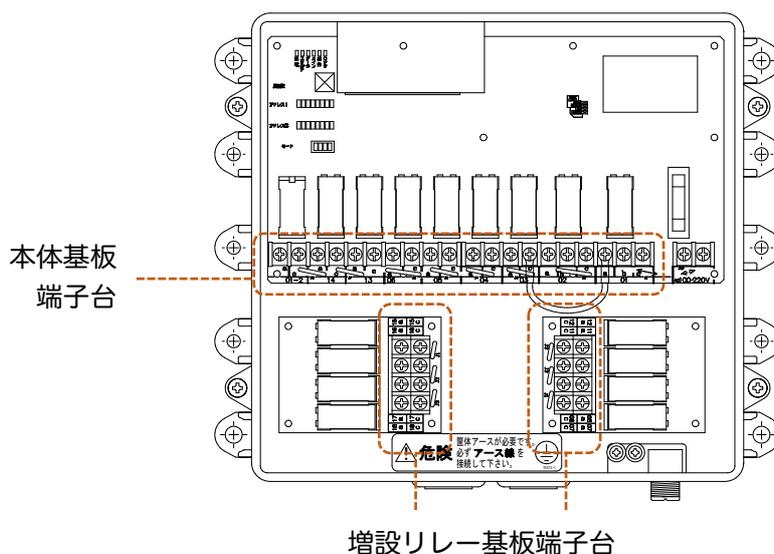
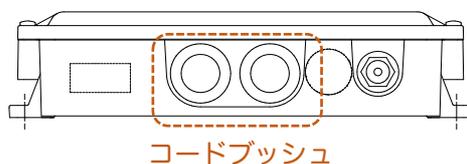


図 5-2. 端子台位置 (RX-51000 の場合)

信号線のケーブルは、コードブッシュから配線してください。コードブッシュはケーブル径に応じてカットしてください。  
なお、雨水が掛かったり粉塵が多い環境では、コードブッシュを外して防水接栓をご使用ください。防水接栓をお求めの際は、弊社にお問い合わせください。

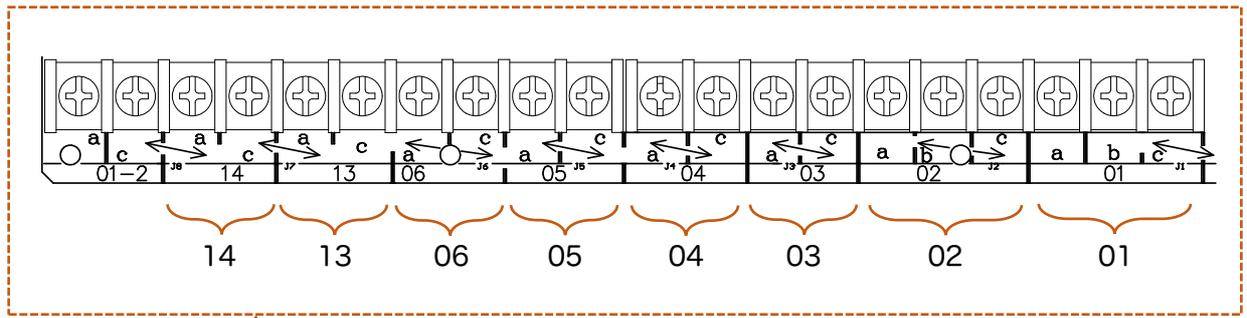


信号線を配線する端子配置の例として、RX-51000 の場合を図 5-3.に示します。  
受信機の型式ごとの配置は、「8-2. 内部配置図」を参照してください。



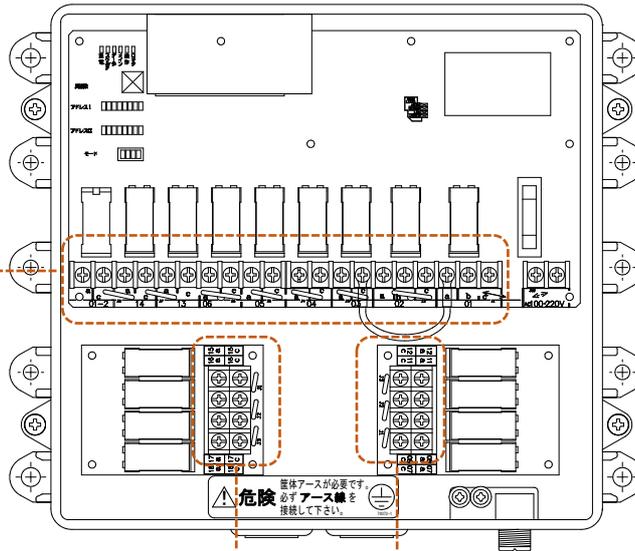
**注意**

- ・内部配置図は標準仕様のものになります。  
非標準型をご購入の場合は、別添の完成図書を参照してください。

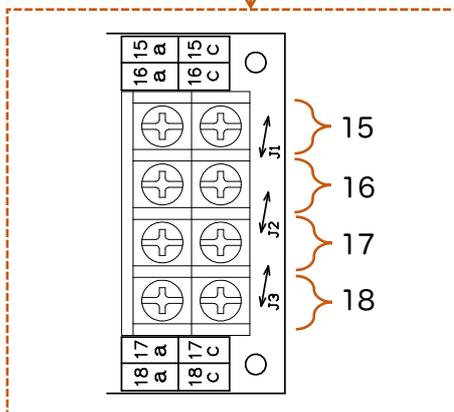


※数字はリレー番号です

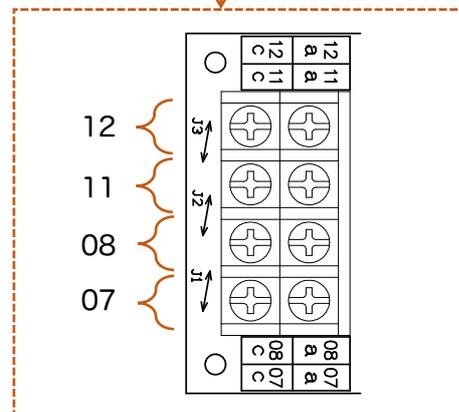
本体基板



増設リレー基板 A



増設リレー基板 B



| 接点種類 | 機能                   |
|------|----------------------|
| a    | a 接点                 |
| b    | b 接点<br>(リレー01,02のみ) |
| c    | コモン                  |

■増設リレー基板

上段：a 接点

下段：コモン

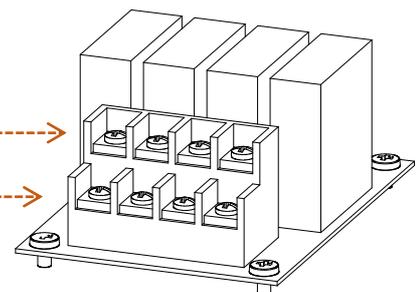


図 5-3. 信号線端子台 (RX-51000 の場合)

## 5. 信号線配線

### 5-3. 配線

RX-51000 の場合の回路配線例を図 5-5. に示します。

01 リレーの c 端子に、負荷側のコモン線を接続してください。(→図 5-5. [A])

信号線が地絡した場合でも誤操作や故障を招かないよう、コモン線は接地相としてください。

本体基板の 02~06, 13, 14 リレーのコモンは、渡り線により、01 リレーの a 端子から、03 リレーの c 端子に接続されています。(→図 5-5. [B])

#### Point

- ・ 01 リレーは、送信機の「主電源入」信号のリレーです。  
送信機からの電波が途絶えたとき（送信機電源 OFF、送信機で緊急停止操作を行った時を含む）、01 リレーが OFF します。
- ・ これを利用し、他のリレーの出力も同時に OFF させるため、01 リレー以外のコモンを、01 リレーの a 端子と接続する方法を推奨しています。(17 リレーを除く)

本体基板の 02~06, 13, 14 リレーのコモンは、本体基板のジャンパー線 J2~J8 により、本体基板内で共通のコモンとなっています。(→図 5-5. [C])

増設リレー基板のリレーのコモンは、増設リレー基板のジャンパー線 J1~J3 により、増設リレー基板内で共通のコモンとなっています。(→図 5-5. [D])

9 リレー基板と増設リレー基板 A、および増設リレー基板 B 間のコモンは、出荷状態では接続していません。コモンを共通にする場合、基板間渡り線（お客様ご用意）を接続してください。(→図 5-5. [E])

DC と AC が混在する場合や、出力を 2 系統に分割する場合は、ジャンパー線をカットしてコモンを分離してください。

(→図 5-4.)

同一のコモンに戻す場合は、お客様にて端子台で接続してください。

ジャンパー線、渡り線の位置を図 5-6. に示します。

基板間渡り線（お客様ご用意）の例を図 5-7. に示します。

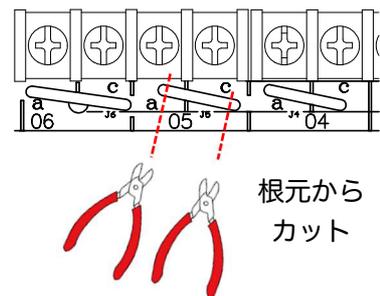


図 5-4. ジャンパー線のカット

#### ■ 17 リレーについて

増設リレー基板 A の 17 リレーは照明用途の使用を想定しています。

送信機電源 OFF でも照明点灯（17 リレー ON）を保持する機能が、受信機側に組み込まれています。外部制御盤で照明入を保持する回路は不要です。

送信機の照明入/切ボタンを押すたびに、照明の入⇄切ができます。

17 リレーのコモンは、お客様にて基板ジャンパー線 J2, J3 をカットして、他のリレーのコモンと分離してください。(→図 5-5. [F])

その後、17 リレーの c 端子に照明電源のコモン線を接続してください。

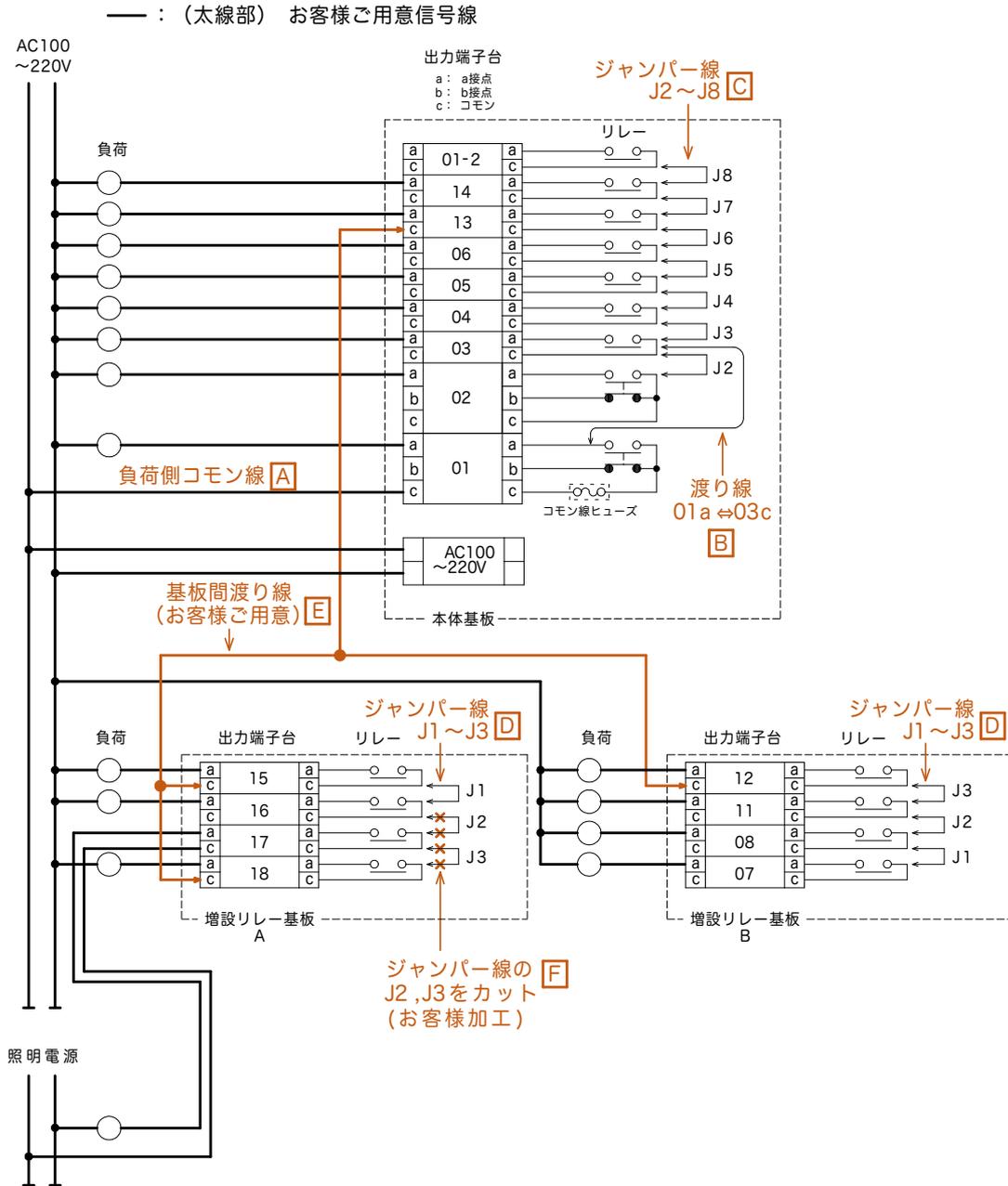


図 5-5. 配線例 (RX-51000 の場合)

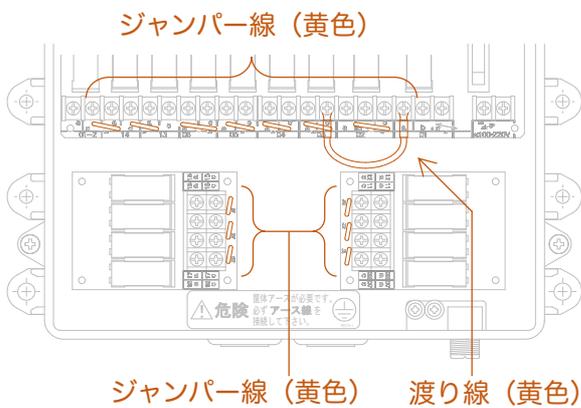


図 5-6. 渡り線とジャンパー線

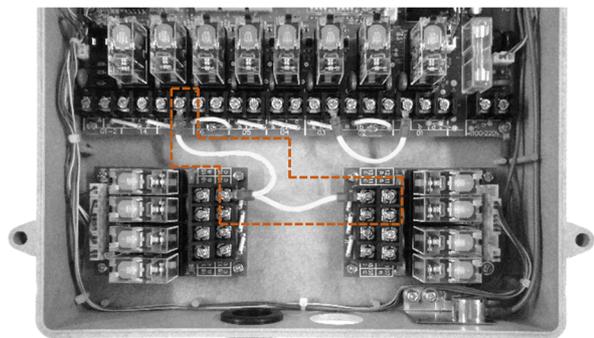


図 5-7. 基板間渡り線の例

## 5. 信号線配線

各種機械により、無線機仕様も変わりますので、ご不明な点がございましたら、弊社にお問合せください。

(お問い合わせ先は、取扱説明書「アフターサービス」を参照してください)

### Point

照明保持モード（標準）から照明保持なしモードへのモード切替は、本体基板の「モード」スイッチの2番で切替可能です。受信機の電源をOFFのとき、スイッチで切替してください。「モード」スイッチの場所は図5-8.を参照してください。

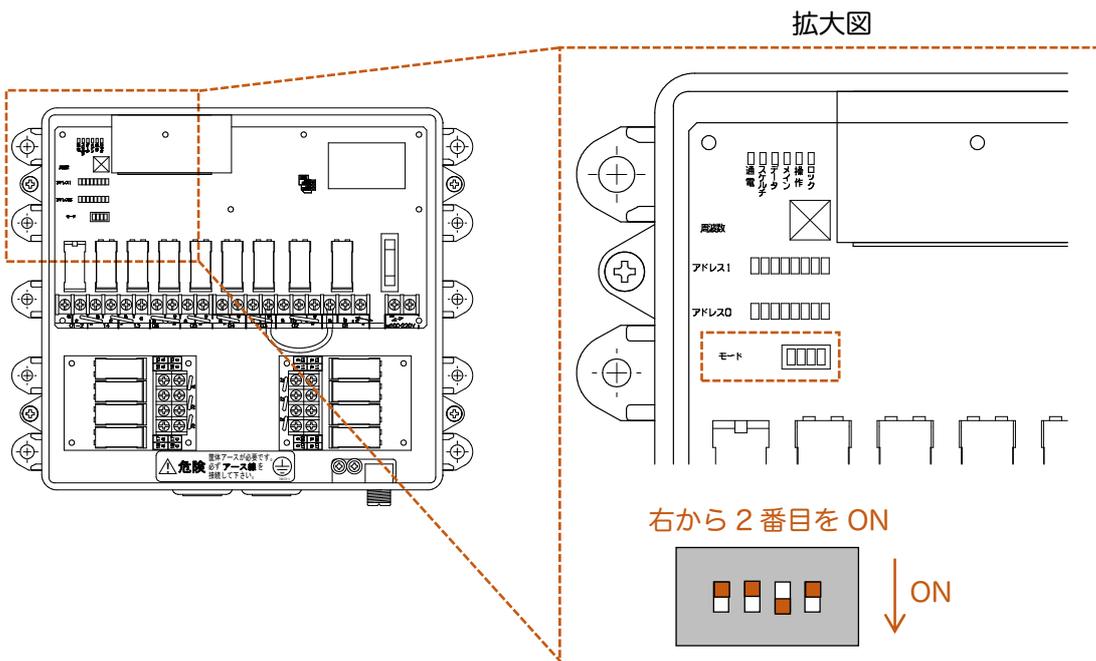


図5-8. モードスイッチ



### 警告

- ・基板ジャンパー線はカットした部分同士が接触しないように取り除いてください。接触すると異なる電源同士が短絡し機器が故障するおそれがあります。



### 注意

- ・弊社出荷時に17リレーを照明保持モードとして設定した受信機は、17リレーが潔白検証回路（取扱説明書「受信機について」参照）の対象ではありません。17リレーで機械等を動作させるような安全に関わる用途で使用される場合は、弊社にご相談ください。

■有線ペンダント式クレーンへの接続例

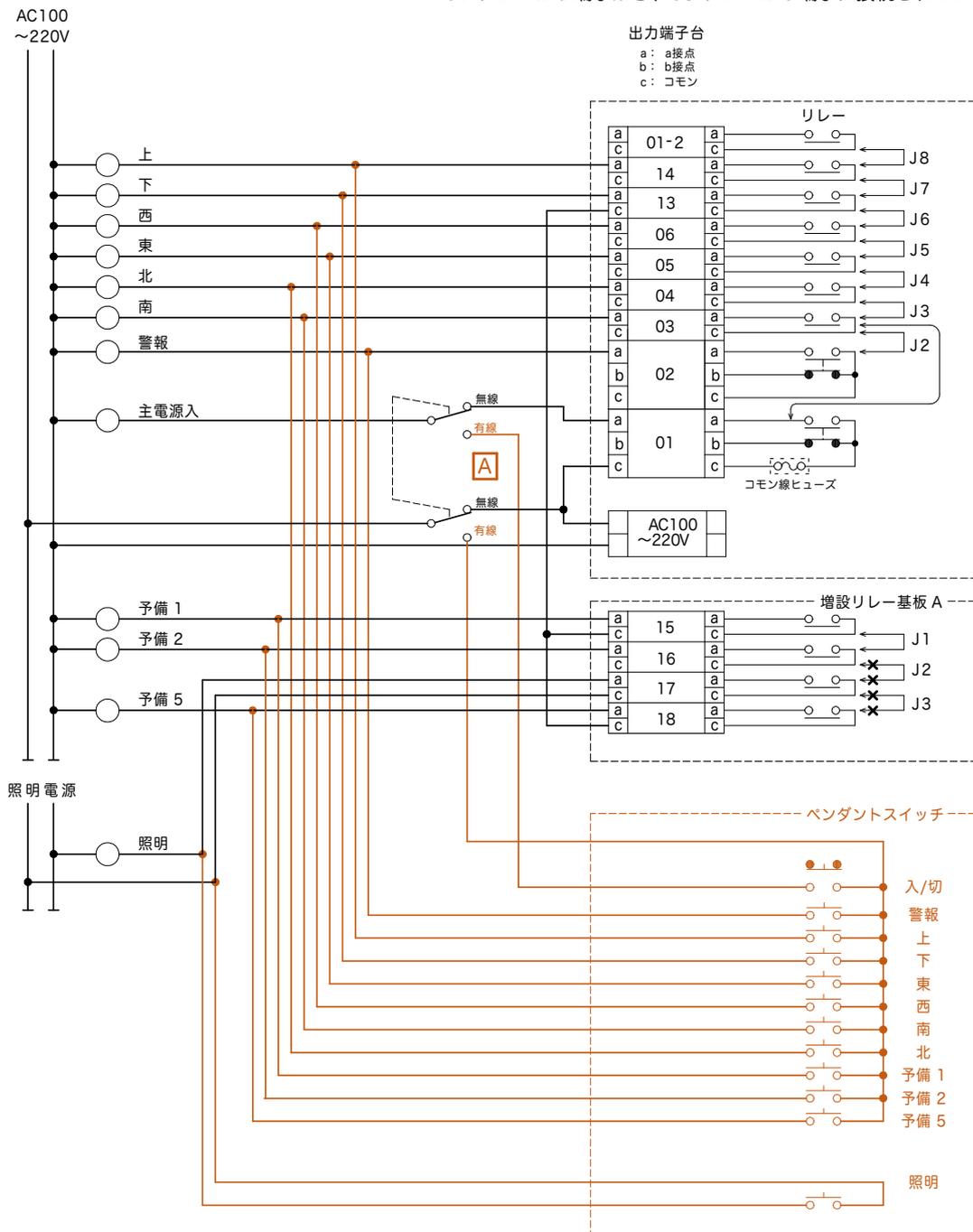
有線ペンダント式クレーンへの接続例を図 5-9. に示します。

有線・無線が同時操作可能とならないよう、**図 5-9. A** に示すように無線操作と有線操作を切替え  
できる回路構成を推奨します。必要に応じて操作回路に遮断用接点を挿入してください。

※01 リレーの c 端子に、負荷側のコモン線を接続してください。

02～06,13,14 リレーのコモンは、渡り線により、

01 リレーの a 端子から、03 リレーの c 端子に接続されています。



※増設リレー基板 B は省略しています。

図 5-9. 有線ペンダント式クレーンへの接続例 (RX-51000 の場合)

# 6. 周波数の設定

通常、お客様にて周波数設定をする必要はありません。

図 6-1. に示す場所に周波数設定を行うロータリースイッチ（上位、下位）があります。受信機は「追尾設定グループ」が基本ですので、上位はジャンパー線にて「F 相当」の設定に固定しています。下位のみ変更可能です。

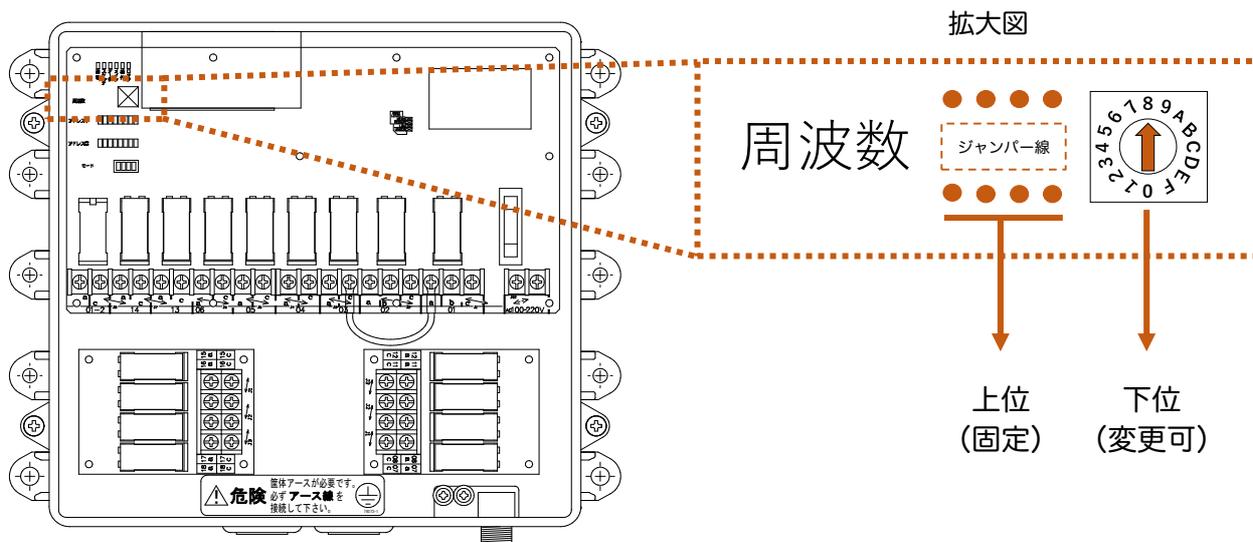


図 6-1. 周波数設定スイッチ (RX-51000 の場合)

受信機では、複数の周波数をまとめた「グループ」で周波数設定を行います。

送信機側でも同様にグループ設定しておくことで、グループに含まれる周波数のなかから、周囲の他の無線局と異なる周波数を、自動で設定します。

この機能を「グループ追尾設定」と呼びます。次の 2 種類があります。

| グループ追尾設定の種類 | 機能                             |
|-------------|--------------------------------|
| 単一グループ追尾設定  | ひとつのグループに含まれる周波数のなかから自動的に設定される |
| 複数グループ追尾設定  | 複数のグループに含まれる周波数のなかから自動的に設定される  |

設定方法は次のとおりです。

## ■429MHz 帯

| グループ追尾設定   | 含まれる<br>周波数 | 設定スイッチ |     |
|------------|-------------|--------|-----|
|            |             | 上位     | 下位  |
| 単一グループ追尾設定 | 5 波         | 変更不可   | 1～8 |
| 複数グループ追尾設定 | 20 波        | 変更不可   | 9,A |
|            | 40 波        | 変更不可   | 0   |

## ■1216MHz 帯

| グループ追尾設定   | 含まれる<br>周波数         | 設定スイッチ |     |
|------------|---------------------|--------|-----|
|            |                     | 上位     | 下位  |
| 単一グループ追尾設定 | 4 波,5 波<br>または 10 波 | 変更不可   | 1～5 |
| 複数グループ追尾設定 | 19 波                | 変更不可   | 0   |
|            | 29 波                | 変更不可   | 6   |

## ■1252MHz 帯

| グループ追尾設定   | 含まれる<br>周波数         | 設定スイッチ |           |
|------------|---------------------|--------|-----------|
|            |                     | 上位     | 下位        |
| 単一グループ追尾設定 | 4 波,5 波<br>または 10 波 | 変更不可   | 9,A,B,C,D |
| 複数グループ追尾設定 | 19 波                | 変更不可   | 8         |
|            | 29 波                | 変更不可   | E         |

詳しい周波数一覧、グループについては、取扱説明書「付録」を参照してください。

## Point

「アドレス」は、受信機では変更不可です。  
また、送信機では基本的に変更は不要です。  
受信機と送信機で「アドレス」が一致している必要があります。

# 7. 動作確認



### 警告

- ・送信機と受信機の動作確認を行う際は、機械を動作させるボタンではなく、「警報」等のボタンから確認を始めていただくことをおすすめします。
- ・機械の動作範囲、および周囲に作業者がいないことを確認し、機械が目視できる範囲で動作確認を行ってください。

受信機の製番・CH ラベルをご確認いただき、受信機のチャンネルコードと、送信機のチャンネルコードが一致しているかをご確認ください。

製番・CH ラベルは図 7-1. で示すように、受信機は側面、送信機は裏面で確認できます。

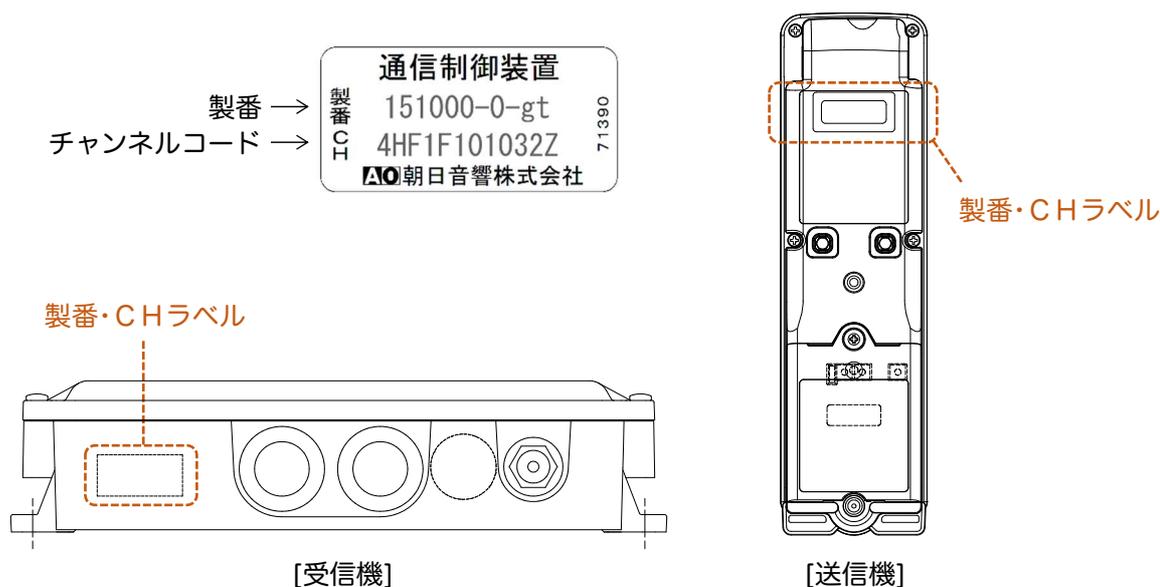


図 7-1. 製番・CH ラベル

受信機のリレーと送信機のボタンの対応の例を図 7-2. に示します。送信機のボタンに印字してある信号番号がリレー番号と対応しています。ボタンに対応するリレーが動作することを確認して下さい。



### 注意

- ・図は標準仕様のものになります。非標準型をご購入の場合は、別添の完成図書を参照してください。

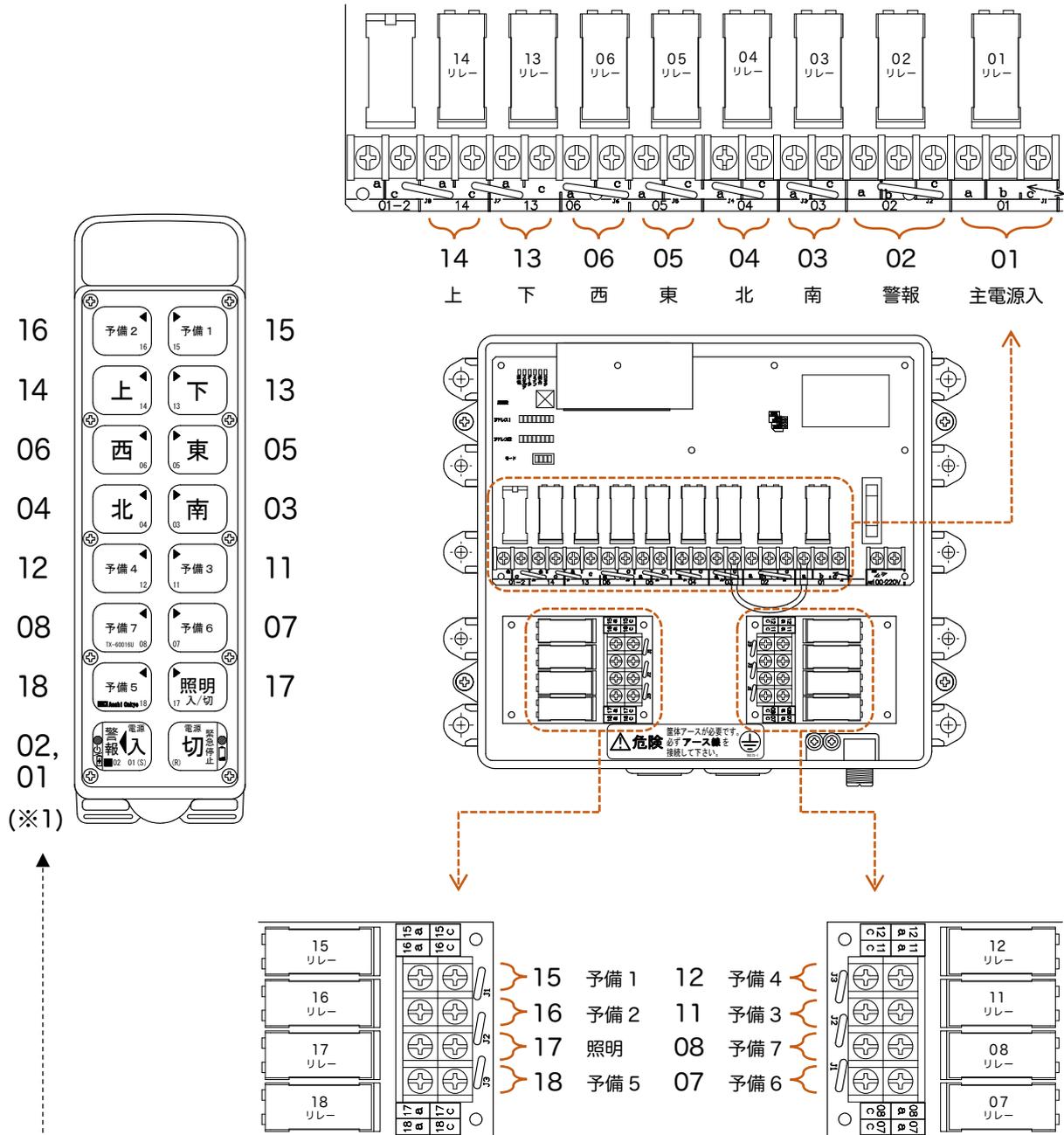


図 7-2. 送信機のボタンと受信機のリレーの対応

(※1)

- ・「電源入」ボタンを押すと送信機の電源が ON し、異常が無ければ電源/充電 LED が点灯し電波を送信します。電源が ON すると「電源入」(01)信号を連続的に送信します。受信機ではこの時、「主電源入」(01)リレーが連続的に ON になります。
- ・送信機の電源 ON の状態で、「電源入」ボタンを押すと「警報」(02)信号を送信します。受信機ではこの時、「警報」(02)リレーが ON になります。  
(非標準型はこの限りではありませんので別添の完成図書でご確認ください。)

# 8. 付録

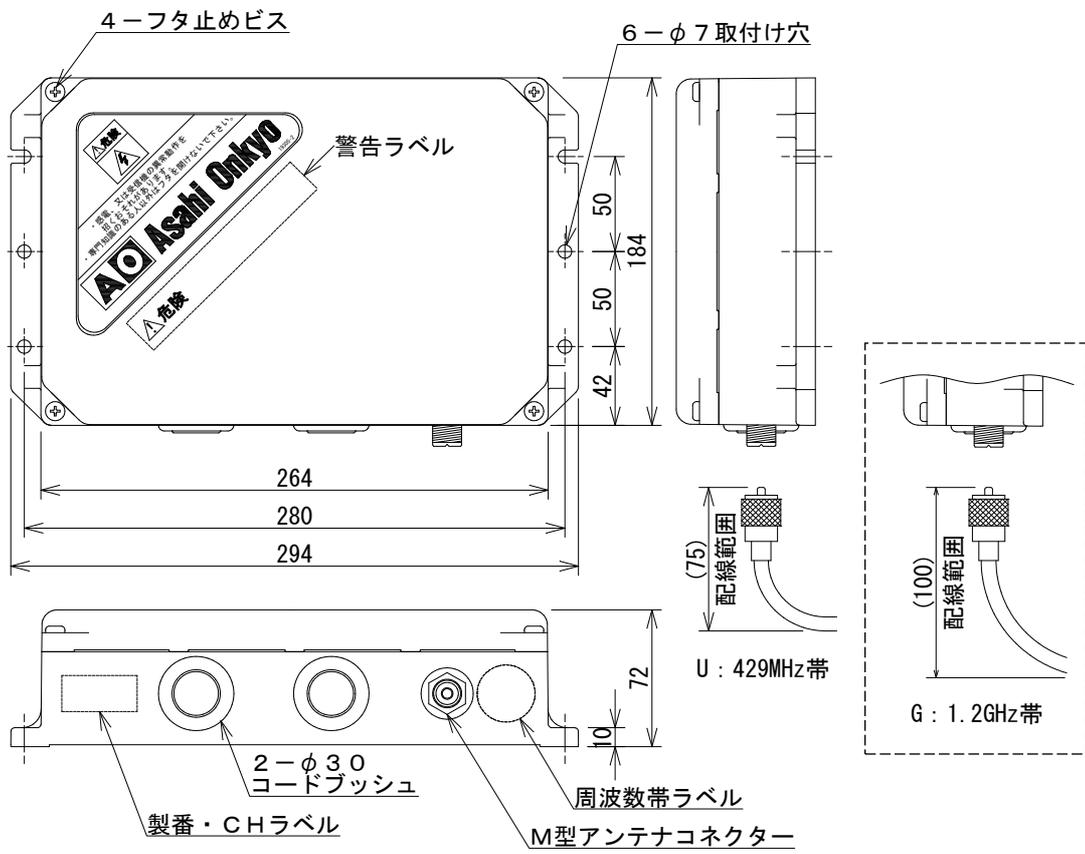


**注意**

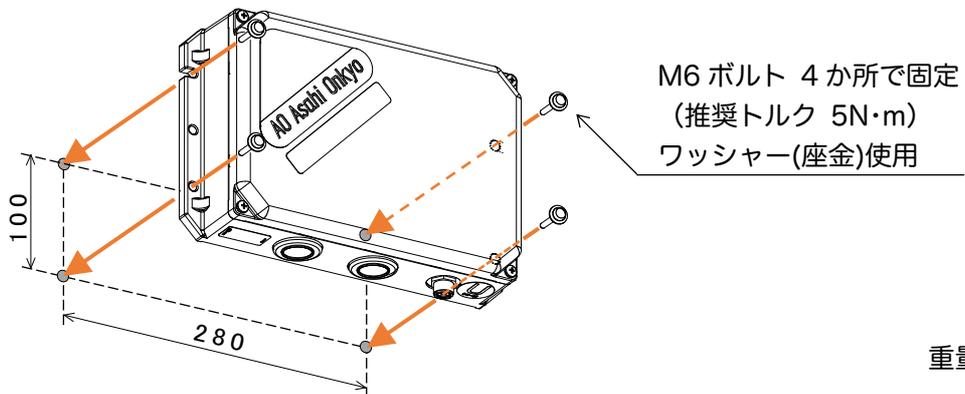
- ・図は標準仕様のものになります。
- ・非標準型をご購入の場合は、別添の完成図書を参照してください。

## 8-1. 受信機外形図

### ■RX-3300

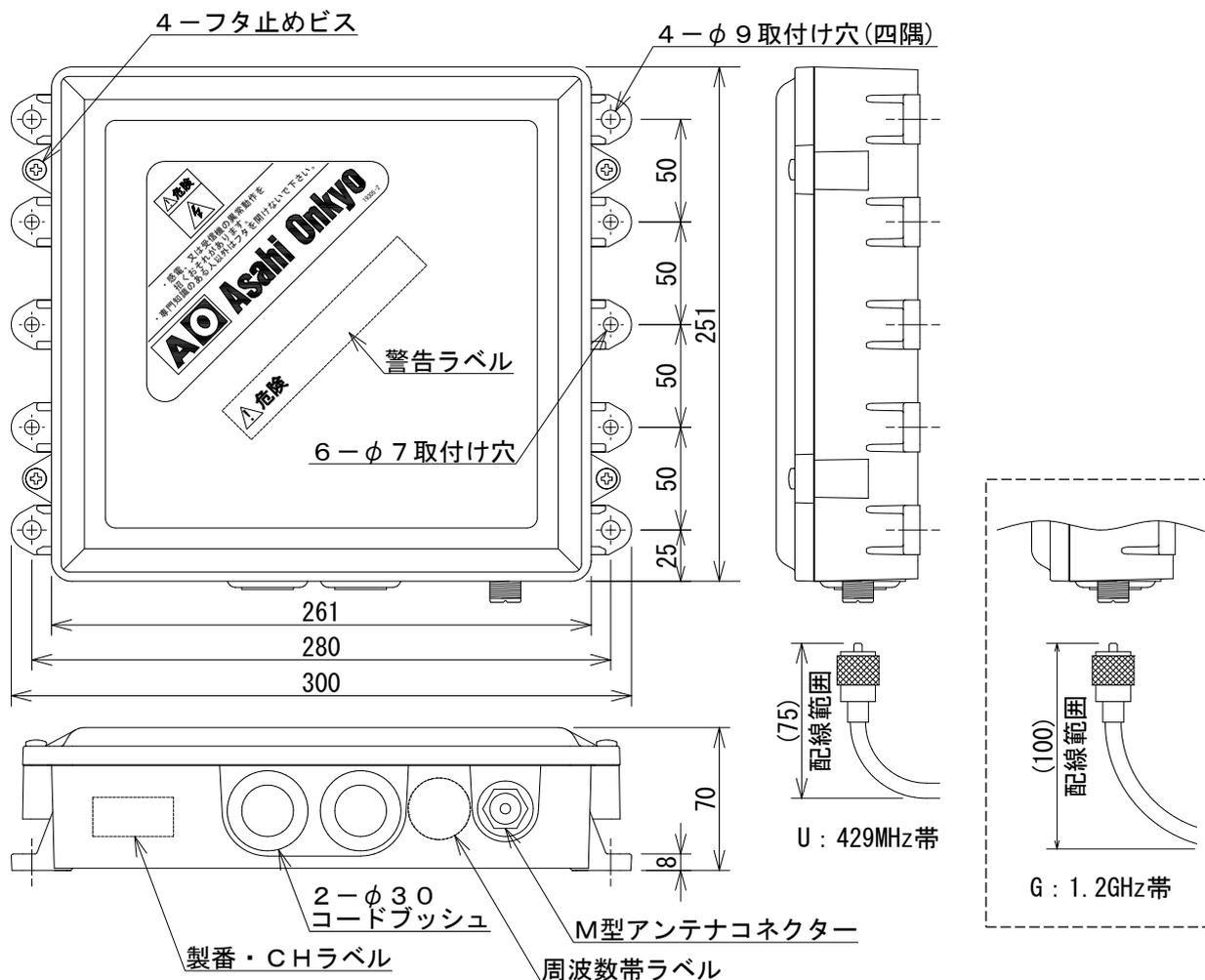


[単位：mm]

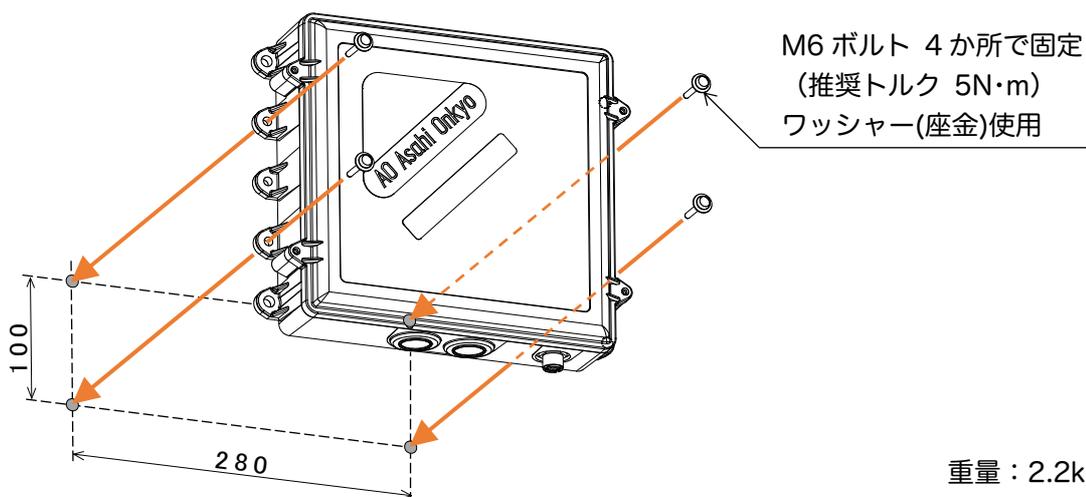


重量：1.4kg

■RX-51000

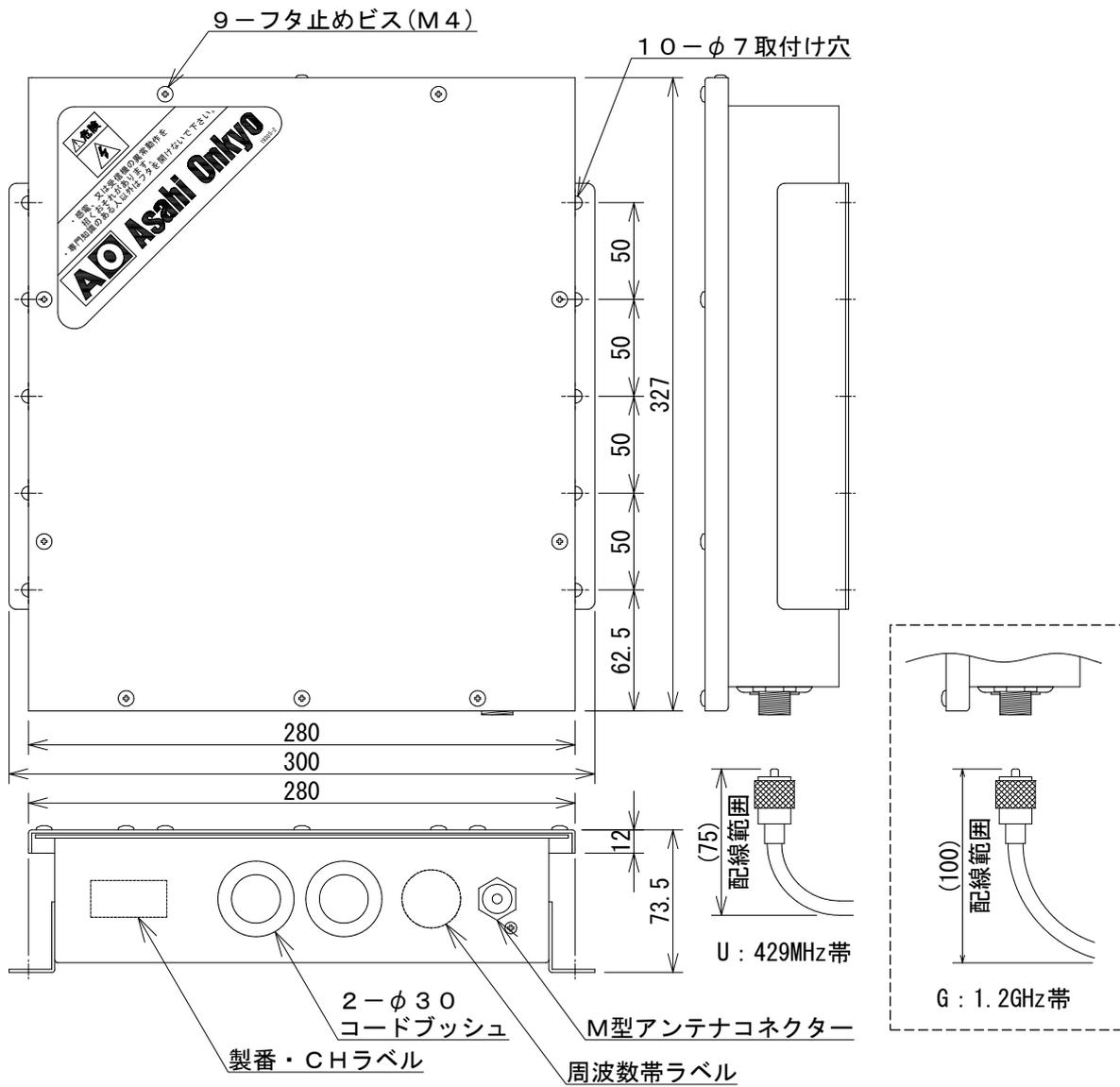


[単位 : mm]

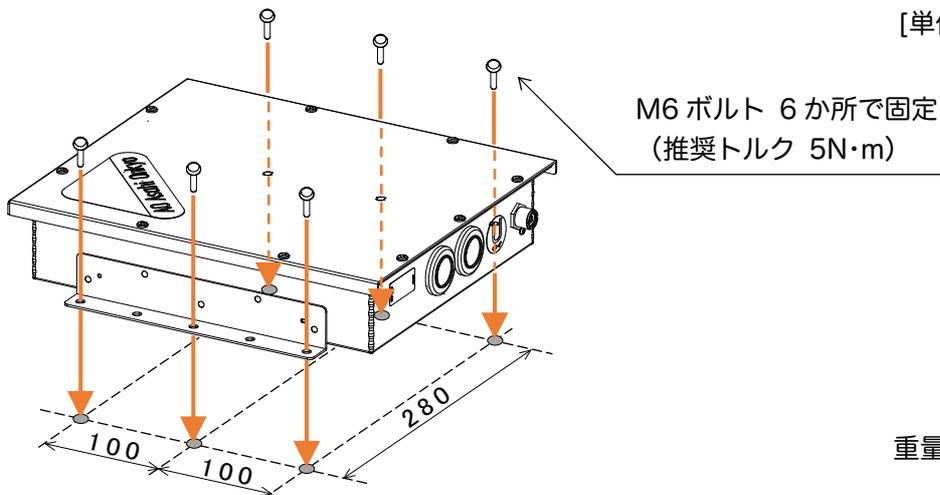


## 8. 付録

### ■RX-61000



[単位: mm]

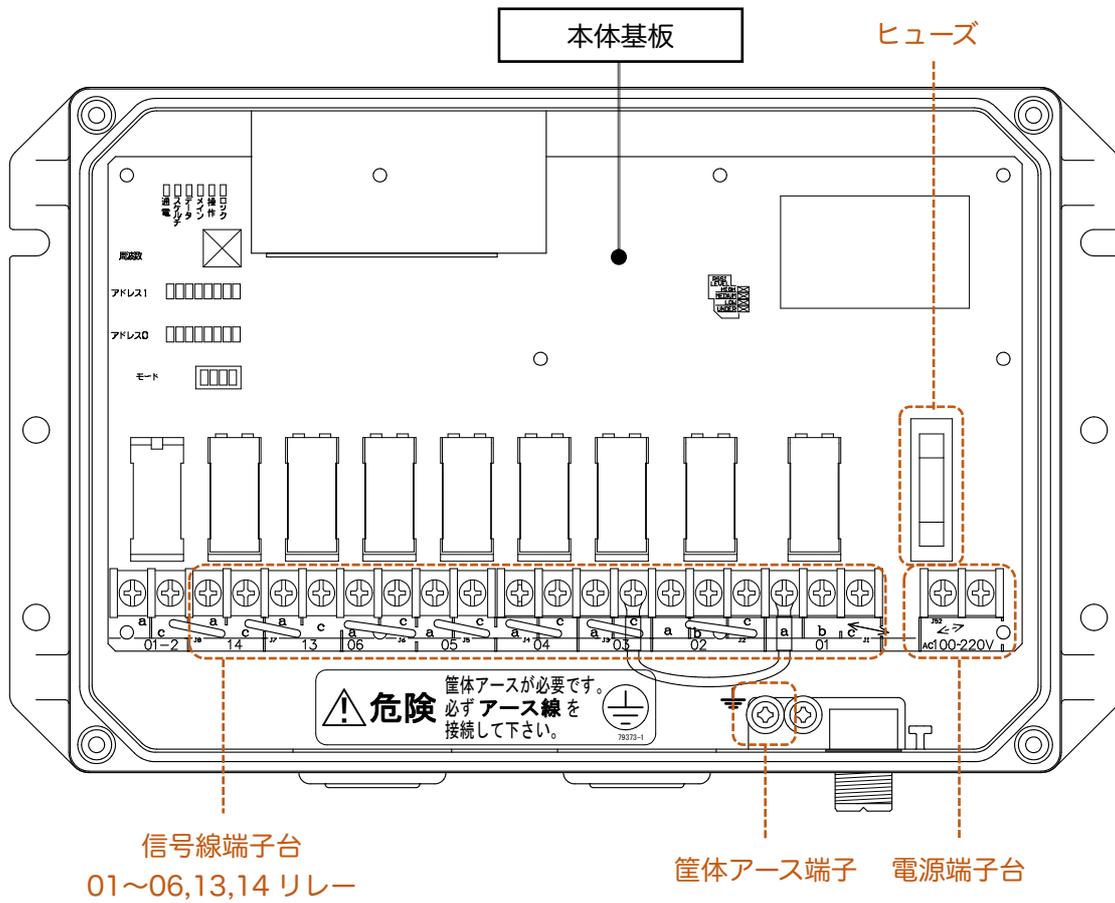


重量: 4.9kg

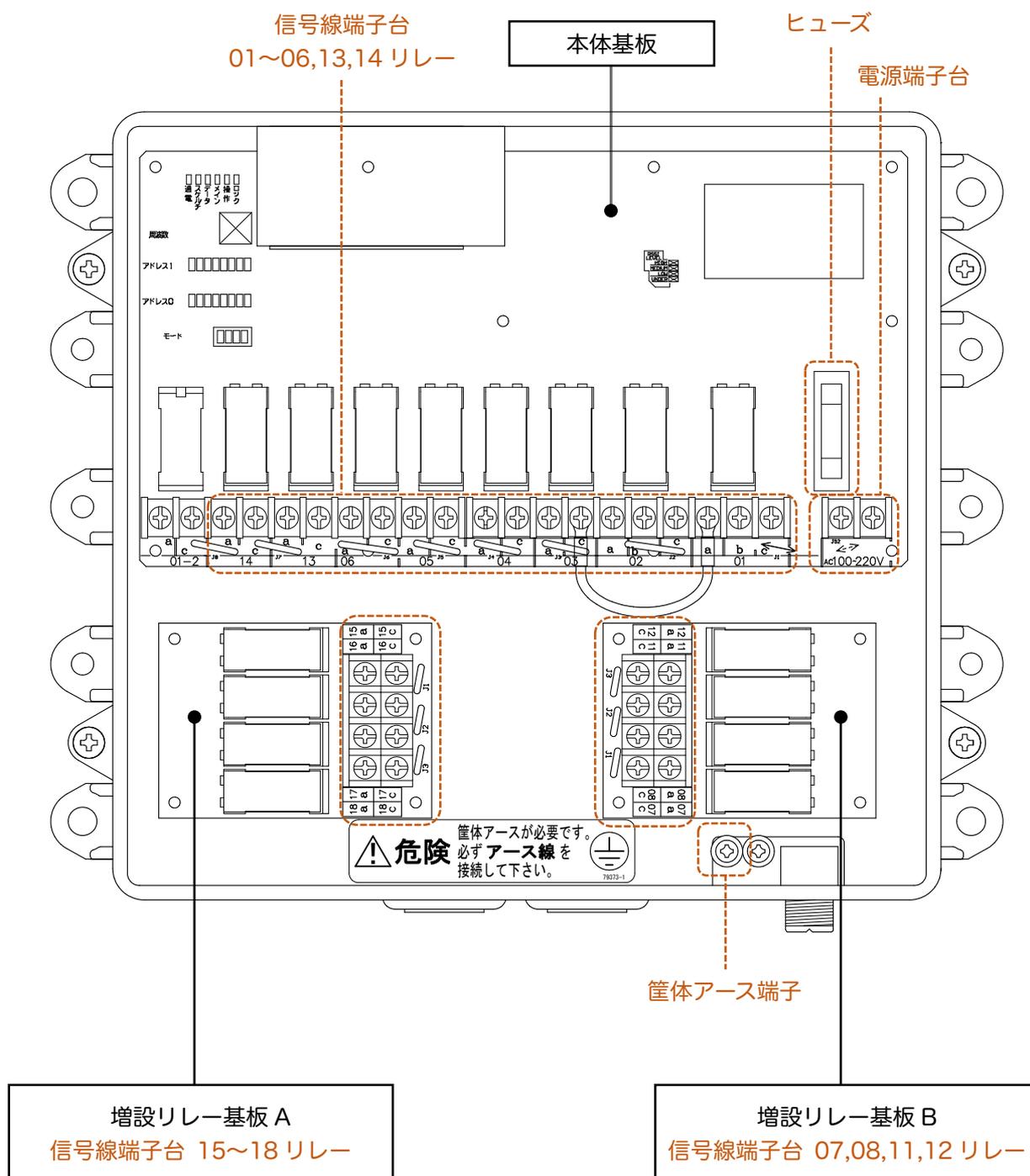


## 8-2. 内部配置図

### ■RX-3300

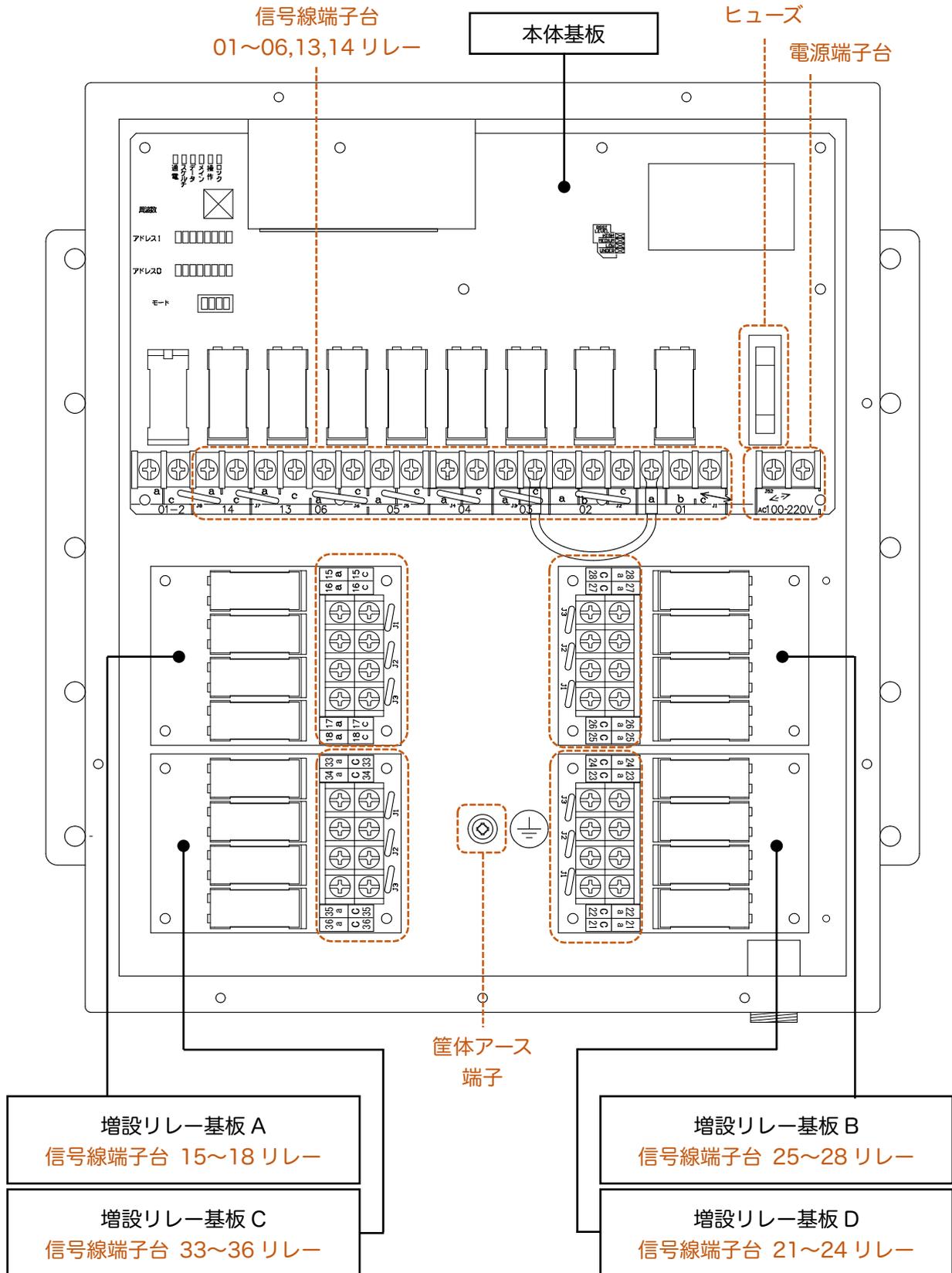


■RX-51000

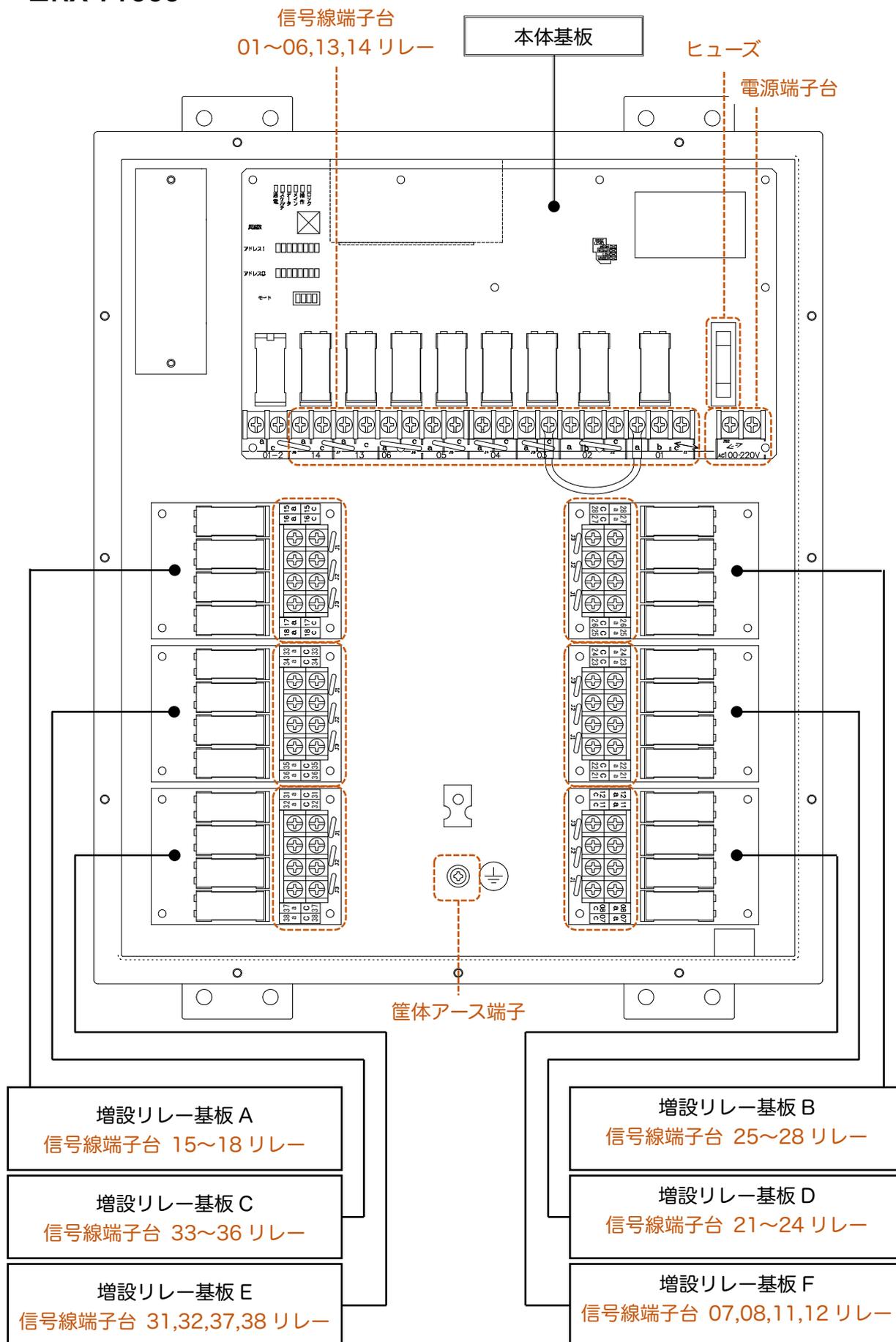


## 8. 付録

### ■RX-61000



■RX-71000



■MEMO

■MEMO

## ■お客様へお願い

- ・他のユーザー様との混信を避けるため、弊社データベースで周波数管理を行っています。  
まだユーザー登録が済んでいない場合は、弊社までご連絡をお願いいたします。
- ・非標準品の場合は、本書と共に必ず完成図書を参照しながらお読みください。  
本書は標準品を基準としています。
- ・ご不明な点、不具合がございましたら弊社までご連絡いただきますようお願いいたします。

未来に向かって  
半歩、先を走る



朝日音響 株式会社

〒771-1311 徳島県板野郡上板町引野字東原43-1

FAX.088-694-5544 TEL.088-694-2411

<https://www.asahionkyo.co.jp/> Email: [office@asahionkyo.co.jp](mailto:office@asahionkyo.co.jp)

